

# 世界史のしおり

2019年度 3 学期号



帝国書院

教授用資料

## ◆思考が深まる！授業研究

### ヒトラーの演説から時代を考察する

―エスカリエの動画資料を活用した授業案―

若松宏英 2

## ◆日本と世界をつないだ“もの”

新世界より

―トウモロコシ&ジャガイモ“交響曲”―

笹川裕史 5

## ◆資料で読み解く当時の社会

風刺画『上院の支配者たち』とアメリカ革新主義

―シャーマン反トラスト法の成立―

今林常美 8

## ◆グラフから読み解く世界史 ～大学入学共通テストを見据えて～

二段階で身につけるグラフ資料読解力

―17・18世紀のオランダとイギリスの事例から― 伊藤真司 10

## ◆未来へ活かす世界史

モノの消費社会から金融社会への変化

玉木俊明 12

### 【付録1】思考が深まる！授業研究

ヒトラーの演説から時代を考察する  
ワークシート編

### 【付録2】資料で読み解く当時の社会

上院の支配者たち



# ヒトラーの演説から時代を考察する

## —エスカリエの動画資料を活用した授業案—

元大阪府立高等学校教諭 若松宏英

### 1 はじめに

筆者は退職教員であるが、これまで普通科で生徒の大半が4年制大学中心に進学する高校をはじめ、ほとんどの生徒が就職する普通科高校や実業高校も経験してきた。そこで、この経験を生かし、『明解世界史図説エスカリエ 十一訂版』（以下、エスカリエ）の「動画でふり返る20世紀の“その瞬間”」等の資料の読み取りで生徒の興味関心を引きつけるとともに、基礎事項を確認しながら、「人を動かす」ツールとしての演説の技術、それを効果的ならしめるメディアを題材にして、考える授業案を提示してみようと思う。

授業時間の不足に悩んでいる学校が多いと思われるので、特設の授業ではなく、普段の流れにのった展開ができるように心がけた。

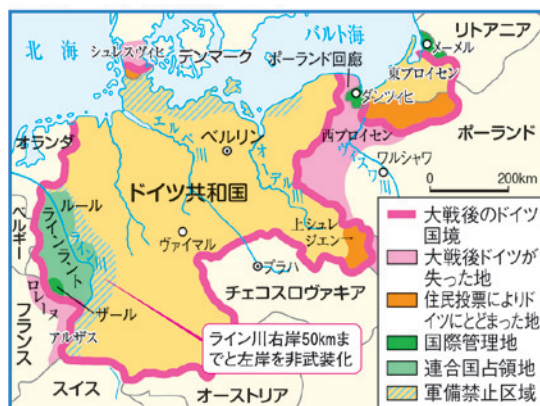
### 2 授業の組み立て

ヒトラー(ナチ党)は、あの時代のドイツだから台頭した。そのことは繰り返し押さえておきたい。

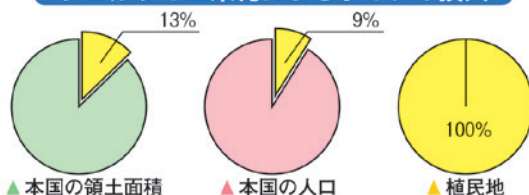
#### 【前の授業までに押さえておくべきこと】

- ・ドイツに苛酷なヴェルサイユ体制（エスカリエ p.174「ドイツに何もかも払わせろ！」を活用）
- ・政権奪取のための実力行使の失敗（エスカリエ p.175年表「3 1920年代のヨーロッパ」を活用しミュンヘン一揆について解説）
- ・選挙による政権奪取への方針転換（エスカリエ p.180「ハイルヒトラー（ヒトラー万歳）」の sloganを紹介し、ナチ党が支持を獲得していったことを解説）

前時の終わりにはエスカリエp.215「ドイツでのファシズム台頭」を見て、写真でヒトラーを確認する。次の時間はこのページの動画から始めることを予告して授業を終わる。



#### ヴェルサイユ条約によるドイツの損失



『明解世界史図説エスカリエ 十一訂版』p.174 ⑤第一次世界大戦後のドイツと「ヴェルサイユ条約によるドイツの損失」

#### 【教室の設定】

動画を見せるために教室にスクリーンがあることが前提となる。条件が許すなら（教員・生徒がリテラシーに習熟している、時間割で情報の授業とかぶらない等）LAN教室を使いたい。各自のペースで動画を繰り返して見られる、各教員が独自で見つけてきた画像を手軽に見せることができるといったメリットがある。

グループで話し合いをする場合は、授業前に机の配置を変更しておく。なお、無理にグループ学習を取り入れる必要はない。

#### 【本時の授業】

「ワーク」は付録のワークシートの各課題を参照していただきたい。

#### 1. 導入

エスカリエp.215「ドイツでのファシズム台頭」の動画を再生（教科書・エスカリエは閉じたまま）。



## 2. ワーク①（個人）

ヒトラーについての既習事項の確認である。記入したらグループで答え合わせをする。

## 3. ワーク②～③（グループ）

ヒトラーの演説や聴衆のようすについて、グループで話し合いながら特徴をワークシートに記入し、グループごとに発表する。

## 4. ワーク②～③の解説

演説をするヒトラーのきびきびした動作、張りのある声の調子、右腕をあげるなどの特徴について解説し、ラウドスピーカーなしでは聴衆への演説が成り立たないことを指摘する。

聴衆は、ヒトラーの演説に歓声を上げる、右腕を前に突き出す、いっしょに歌を歌うなど、ヒトラーと同じ行動をしていることを指摘し、同一行動により一体感が得られることを解説する（ただし映像は編集されているかもしれない、その場合、歓声などはあとから録音された可能性もある）。

そして、1936年は非武装地帯であるラインラントへの進駐の年であることを指摘する。不公平なヴェルサイユ体制にくさびをうち込むものであった。

## 5. ワーク④に向けての解説

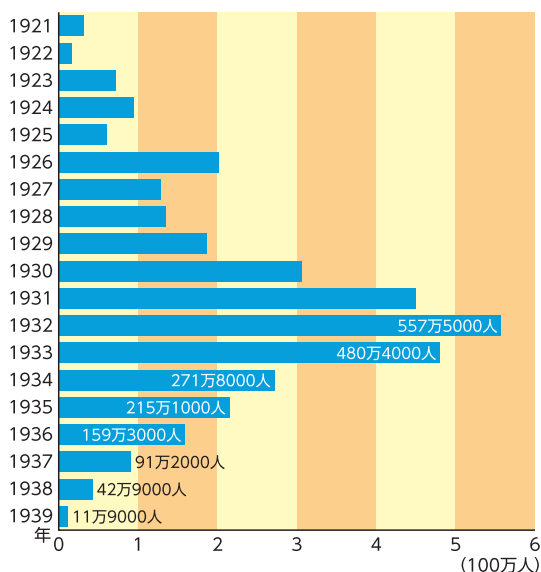


『明解世界史図説エスカリエ 十一訂版』p.180「②フォルクスワーゲン（国民車）の操業（1938年）」  
写真：ユニフォトプレス

これまで、ヒトラーが公約をそれなりに実現させてきたこと、それがヒトラーの演説に説得力をもたせてきたことを説明する。とくに景気対策・失業対策について、ワークシートの資料「失業者数の推移」および『明解世界史 A』p.178「ドイツのある職人の証言」、p.179「物にも歴史あり アウトバーンと国民車」等を参照して解説する。

## 6. ワーク④（個人またはグループ）

ナチ党の実績をふまえ、もし自分が当時のドイツ人ならヒトラーの演説に耳を傾けるか（主張に



失業者数の推移（1921～39年）『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社、2015年）p.207をもとに作成

賛同するか）、また、その理由は何かをワークシートに記入する。そののち、「自分が当時のドイツ人ならヒトラーの主張に耳を傾ける」とした生徒がどれぐらいいるか挙手でよいので確認したい。

## 7. ワーク⑤について

ファシズムに限らず、各種団体・グループ（会社・学校・クラブなど）においては、一体感を高める工夫を行っており、それは身近なものであることを確認したい。

## 8. まとめ

ヒトラーを生み出した社会背景・時代背景、そしてメディアの発達と、それを存分に生かしたヒトラー、もしくはナチ党の戦略について確認する。板書または PowerPoint®スライドにより、下記の内容を提示する。

年	できごと
1893	アメリカのエディソンが映画（キネトスコープ）を一般公開。第一次世界大戦においてはアメリカやドイツでプロパガンダ映画が制作された
1920	世界初のラジオの国営放送（娯楽音楽放送であった）がアメリカで始まる
1924	ライスとケロッグによってラウドスピーカーが発明される
1932	イギリスで世界初のテレビ定期試験放送（機械式、週4日）開始
1935	ドイツで定期試験放送開始。ベルリンオリンピックのテレビ中継が行われる

## 9. 指導（次項を参照）

### 3 注意点：まねさせない

今回のような授業を行う際に、もしくは行ったあとに注意すべきことがある。それは、ヒトラー（ナチ党）を無批判に、場合によってはおもしろがってまねをする生徒が出る可能性である。

数年前、あるアイドルグループがナチ党の軍服を連想させる衣装を着て国際的に批判を浴びた。日本の漫画や映画、ポップスなどがナチスの文化を好んで用いる傾向（いわゆる「ナチカル」）には、国際的に厳しい目が注がれていることを伝えたい。

ファシズム（ナチ党、ヒトラー）の危険性については、ホロコーストとともに扱うことが多いと思うが、今回の授業案のなかには、ホロコーストは出てこない。教科書では、一般的にホロコーストはもう少しあとで扱われている。しかし、授業で静止画よりも印象が強い動画を見せることで、生徒がまねをするようなことにならないよう、ファシズムの危険性についてはこの授業のなかでもしっかりと指導しておきたい。

### 4 時間の余裕があれば…

近年は、授業1時限が50分とは限らない。筆者が在籍したなかでも65分授業の高校があった。ここまでの内容では時間が余る場合もあると思うので、その場合には関連した内容を扱いたい。

1つ目はメディアによる演出である。エスカリエ p.215「メディアによる演出を重視したヒトラー」で取りあげられているのは、有名な聖火リレーである。オリンピック会場に聖火をともすことは1928年のアムステルダムオリンピックから行われていたが、アテネからの聖火リレーを行ったのは1936年のベルリンオリンピックが初めてである。そして、現在でもオリンピックを盛り上げる一大イベントになっている。

なお、なぜ「火」が大切かということについては、生徒から質問が出たときのために、ギリシア神話において人類に火をもたらしたとされているプロメテウスの話は調べておきたい。

2つ目は、当時と現在のメディアの比較である。

## more メディアによる演出を重視したヒトラー

ヒトラーは、左の映像のような大衆集会だけでなく、ポスター、ラジオ、映像などさまざまなメディアを駆使することで、大衆から熱狂的な支持を集めることに成功した。こうしたメディア戦術で活躍したのが、ヒトラーから宣伝大臣に任命されたゲッベルス（1897～1945）である。1936年のベルリンオリンピックでは演出の総責任者となり、初めて聖火リレー（写真）を実施するなど、オリンピックを自国のプロパガンダ（宣伝）の場として大いに利用した。またオリンピックの成功により、ドイツ国民の誇りを取り戻す結果にもつながった。 ▼ベルリンオリンピック



『明解世界史図説エスカリエ 十一訂版』p.215「メディアによる演出を重視したヒトラー」写真：Getty Images

ヒトラーは演説内容を国民に届けるために、どのようなツールやメディアを活用しただろうか。では、IS（「イスラム国」）は何を活用したか、またそれはなぜかといったことを考えさせてみたい。

### 参考 ICT関係のメディア年表

年	できごと
1995	ウィンドウズ95発売
2004	ミクシィ運営開始
2004	フェイスブック創設
2005	ユーチューブ設立
2006	ツイッターサービス開始
2010	インスタグラム(写真共有アプリケーション)リリース
2016	スマートフォン 日本での普及率71.8%

### 5 終わりに

初めに書いたように、筆者は現役ではない。よって実践報告ではないが経験を生かして生徒および担当者の個性に応じてアレンジできる案の作成心がけた。活用していただければ幸いである。

#### 【参考文献等】

- ・高田博行『ヒトラー演説―熱狂の真実』（中央公論新社、2014年）
- ・石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社、2015年）
- ・監督／脚本：デヴィッド・ヴェンド『帰ってきたヒトラー』（2016年）



# 新世界より

## —トウモロコシ&ジャガイモ“交響曲”—

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 笹川裕史



### ① はじめに

本稿は、トウモロコシとジャガイモに関する、原産地アメリカ、そしてヨーロッパや日本でのごきごきを主題とする世界史Aの授業案（1時間）である。授業は、生徒への発問を軸に構成した。

### ② 《導入》 アメリカ大陸原産の農作物

**トウモロコシ・ジャガイモを表す英単語はそれぞれ何か？**

日本語の「コーン」はトウモロコシをさす。しかし本来 corn とは、その地域の主要な穀物のことであり、イングランドでは小麦、スコットランドではオート麦を意味する。したがってアメリカ先住民がマイース（mahiz）とよんでいた作物を、イギリス人は現在でもメイズ（maize）とよぶ。しかし北米植民地に渡った人々が、この作物をインディアン・コーンと名づけたことから、アメリカ英語ではトウモロコシをコーンとよぶようになった。

ジャガイモに関しては、当初スペイン人は、先住民のパパ（papa）という名を用いていた。しかし papa がローマ教皇と同じ発音であることからパタタ（patata）とよぶようになった。これが英語のポテト（potato）の語源という説がある。

**標高4000mの高地でも栽培が可能なのは、トウモロコシとジャガイモのどちらか？**

インカ帝国の主要作物は、長らくトウモロコシだと考えられてきた。だがインカの都クスコ（人口約20万人）の標高は3400mである。温暖な気候を好み、寒冷な高地での栽培が困難なトウモロコシがほんとうに主食だったのだろうか。近年では、標高4000m以上でも栽培可能なジャガイモが注目されている。インカ人の骨から抽出したたんぱく

質から生前の食生活を復元する研究によれば、主要な食料がイモ類や豆類だったからである。

生のジャガイモは、毒素のソラニンを抜いて冷凍と乾燥を繰り返すと、大きさも重さももとの半分程度のコルク状となる。先住民は、このチューニョという加工品の形態でジャガイモの長期貯蔵を可能にし、運搬の容易な交易品としたのである。

**マヤ文明の神話では、人間はトウモロコシとジャガイモのどちらからつくられたか？**

マヤ文明やアステカ文明の神話では、トウモロコシから人間がつくられている。アステカ文明では、トウモロコシの神々を総称してセンテオトルというが、各地域にトウモロコシにかかわる多種多様な神々が存在している。

トウモロコシは、先アメリカ世界における主食だったが、インカ帝国では酒をつくる材料として重視された。インカの「太陽の祭り」では、祭壇の前でインカ皇帝がチチャという酒を入れた杯を太陽にささげた。また兵士や農民にも、あまたある饗宴や祭祀の際に大量のチチャがふるまわれた。インカでは、主食のジャガイモはケの、儀礼的なトウモロコシはハレの食材であった。



〈図1〉テノチティトランの想像図に描かれたトウモロコシ原産地ではさまざまな色のトウモロコシが収穫されている。（『明解 世界史A』p.57⑦部分）写真：ユニフォンプレス

### ③《展開1》 ヨーロッパへの伝播

**トウモロコシの収穫率（まいた種の量に対する収穫量の比率）はどれくらいだろうか？**

第1回目の航海時にコロンブスはトウモロコシをヨーロッパに持ち帰った。そして16世紀末にはスペイン南部からドイツやイギリスに、また東ヨーロッパやバルカン半島にも広く伝播していた。

トウモロコシの収穫率は非常に高い。近代初期のヨーロッパで収穫率が5～6倍だった小麦に対し、トウモロコシは約600倍であった。

トウモロコシは、ヨーロッパの人口増加を支えたが、あくまでも小麦の代替品であった。貧しい農民は、上流階級が蔑視したトウモロコシを食べ、収穫した小麦を売却していた。のちになるとトウモロコシは、食料よりも、牛などの家畜の飼料（葉や茎の部分）として重視されていった。

**ヨーロッパ人が、17世紀中ごろにトウモロコシをアフリカにもたらした理由は何か？**

1本の<sup>しずい</sup>雌穂にまとまって実をつけるトウモロコシは、<sup>ほうえい</sup>苞葉のおかげで鳥害をまぬかれ、また脱粒がないので保存や運搬が楽だった。ポルトガル人たちが西～南アフリカにトウモロコシを導入したのは、奴隷船にのせる食料とするためであった。

また、トウモロコシが世界各地に広まったのは、生産性の高さに加え、人為的な交配によってその環境に合わせた品種改良が容易だったからである。

**ヨーロッパで最初に食用ジャガイモが普及したのは「スペイン・オランダ・スイス」のどこか？**

ジャガイモのヨーロッパ伝来は漠然としている。1570年ごろのスペインに最初の記録が残っており、16世紀末にはヨーロッパ各地にジャガイモが伝わっていた。ただし君主の庭園での薬用・観賞用が大半であった。多くの民衆は、聖書で言及されていない、しかも地下茎の部分食用とするジャガイモを「悪魔の作物」とみなしていた。

しかし寒冷地でも栽培が可能なジャガイモは、凶作・飢饉と戦乱の続く17世紀のヨーロッパを救った。麦と異なり、戦争で畑が踏み荒らされても収

穫ができたことも重要だった。

プロイセン国王フリードリヒ2世に代表される啓蒙専制君主たちの奨励もあり、（地域差はかなり大きい）18世紀末には、食用としてのジャガイモ栽培が定着した。ただしオランダを中心とするネーデルランド地方では、すでに1700年ごろには市場でジャガイモが売られ、一般的な食材となっていた。当時のオランダの先進性がうかがえる。

**ジャガイモには、Irish potatoという別称がある。そうよばれた理由は何か？**

1649年のクロムウェルの侵略後、アイルランドでは小麦の栽培できる土地をイングランド人地主が奪っていった。農民たちは、荒廃した痩せ地に追いやられたが、ジャガイモはそのような環境でも対応できる作物であった。1haの畑から17tのジャガイモを大きな労力もなく収穫できたため、ジャガイモ畑は「怠け者のベッド」とよばれた。乳製品と栄養価の高いジャガイモを摂取したおかげで、アイルランドの人口は、1760年の150万人から、1841年には約800万人へと急増した。

北アメリカでは、18世紀中ごろにジャガイモの本格的な栽培が始まった。それは、アイルランド系移民によるジャガイモ導入後であり、南米からの伝播ではない。アメリカ合衆国やカナダで、ジャガイモを Irish potato とよぶゆえんである。

1845年の夏、全ヨーロッパ規模でジャガイモの疫病が発生した。アイルランドの損害は約4割で、46年のジャガイモの植付面積は約3分の1縮小した。「貧者のパン」とよばれたジャガイモの凶作



〈図2〉ジャガイモ飢饉の追悼碑 ダブリンの移民博物館の周辺にある彫刻群。



は数年間続き、ヨーロッパ各地で起こった食料危機が1848年の革命運動につながっていく。

ジャガイモ飢饉によって、アイルランドは19世紀のヨーロッパで唯一の人口減少国となった。少なくとも100万人が餓死か飢饉による病死、ほぼ同数の人口が新大陸に移住したといわれる。ジャガイモ単一耕作によるアイルランドの悲劇はイングランドの過酷な収奪という人災でもあった。

#### ④《展開2》 日本へ

**戦前の日本には、トウモロコシが2度伝来している。どの時代か？**

1580年ごろにポルトガル人が長崎にトウモロコシを伝え、その栽培は東北にまで広がった。そして明治初年に北海道開拓使がアメリカ合衆国より導入したのが2度目のトウモロコシ伝来といえる。飼料用・生食用として、戦後の高度経済成長期に北海道の畑作および酪農に大きく貢献した。しかし、1970年代以降は、安価なトウモロコシが輸入され、日本での栽培は急速に減少した。

現代の日本は、世界最大のトウモロコシの輸入国である（2016年）。その4分の3はアメリカから輸入され、大半が家畜の飼料となっている。

**2017年の日本で、ジャガイモの生産量が1位と2位の都道府県はどこか？**

通説では、1598年にオランダ船が長崎にジャガイモをジャワ島からもたらしているが、スペインへの伝来後、約30年でジャガイモが日本に到来したのは早すぎるという批判もある。交易が長崎の出島に限定された1641年以降にオランダ人がジャガイモを伝えたとするのが妥当かもしれない。

オランダ東インド会社の拠点だったジャカルタ経由で伝わったため、ジャガイモは江戸時代にはジャガタライモとよばれた。もともと東南アジア～東アジアでは、サトイモやナガイモなどの根菜が一般に食されており、日本では、ヨーロッパ人のようなジャガイモに対する抵抗感はなかった。そして凶作時の救荒作物として、江戸時代の後半には日本各地で栽培されるようになっていた。

明治時代に開拓事業の一環としてジャガイモの

栽培が推進された北海道では、やがて他府県を圧倒する生産量となり、現在にいたっている（2017年の1位の北海道が78.6%、2位の長崎が3.7%）。さらに明治の末、川田龍吉がアメリカから取り寄せた種イモが北海道の風土に適合し高収穫となった。現在も広く栽培されている男爵イモである。

日本のジャガイモの作付面積は1949年の23万4500haが最大で、その後は減少している（生産量の最高は1965年の405万6000t）。その背景には戦争があった。1940

年に政府は「節米運動」を始め、米の代用食としてジャガイモやサツマイモが増産された。あき地や公園、学校の校庭が次々とイモ畑にかえられ、戦後の食料難の時期も同じ状況が続いていたから

〈図3〉畑と化した国会議事堂前庭（1945年2月2日撮影）写真：読売新聞社

#### ⑤《整理》 現代のトウモロコシ・ジャガイモ

小麦・米・トウモロコシは3大穀物、それにイモ類を含めると4大作物といわれている。

またトウモロコシは、食用・飼料用だけではなく、コーンスターチやバイオエタノールなどの工業用にも生産されている。日本では主食としての印象が薄く、添え物の感があるトウモロコシとジャガイモだが、その重要性を生徒には認識させたい。

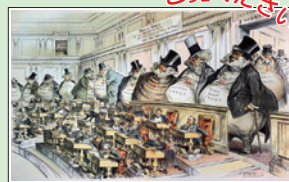
##### 【おもな参考文献】

- ・戸澤英男『トウモロコシ—歴史・文化、特性・栽培、加工・利用』（農山漁村文化協会、2005年）
- ・伊藤章治『ジャガイモの世界史—歴史を動かした「貧者のパン」』（中央公論新社、2008年）
- ・山本紀夫『ジャガイモのきた道—文明・飢饉・戦争』（岩波書店、2008年）
- ・アンドルー・F.スミス著、竹田円訳『ジャガイモの歴史』（原書房、2014年）
- ・マイケル・オーウェン・ジョーンズ著、元村まゆ訳『トウモロコシの歴史』（原書房、2018年）

# 風刺画『上院の支配者たち』と アメリカ革新主義

## —シャーマン反トラスト法の成立—

付録といっしょに  
ご覧ください！



写真：PPS通信社

福岡県立中間高等学校 今林常美

### 1. はじめに

2019年7月、アメリカ司法省は民間のオンラインプラットフォームについて、反トラスト法違反の疑いで調査を開始したと発表した。グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン（GAFA）などを対象としているとみられる。

反トラスト法とは、1890年制定のシャーマン反トラスト法、1914年制定のクレイトン反トラスト法、同年の連邦取引委員会法の総称で、日本の独占禁止法に当たる。今回取りあげる風刺画は、シャーマン反トラスト法成立に世論喚起の点で寄与したといわれるジョセフ・ケプラーの『上院の支配者たち』（『最新世界史図説タペストリー 十七訂版』p.219⑪、雑誌『パック』1889年1月23日付）である。当時のアメリカの政治・経済・社会などの動向を探るなかで、生徒とともに考察を進めていきたい。

### 2. 風刺画『上院の支配者たち』が語るもの

まずは風刺画を生徒に配布し、画中の言葉や小文などを手がかりに、描かれているものを読み取らせる。その際、班ごとに議論を行い、各班の代表に発表してもらうのも1つの方法である。

画中の場面は上院であるが、民衆の入り口は閉鎖されており、上院が「独占者の、独占者による、独占者のための」特権クラブと化していることを示している。傍聴席から12のトラスト（企業合同）が議場ににらみをきかせ、それを気にしながら落ちつきなく議席に座っている上院議員の姿が描かれている。トラストは、右から鉄すき（PLOUGH STEEL）、鉄くぎ・鉄ねじ（NAIL）、鉄鋼（STEEL BEAM）、銅（COPPER）、石油（OIL）、鉄（IRON）、砂糖（SUGAR）、すず（TIN）、石炭（COAL）、紙袋（PAPER BAG）、封筒（ENVELOPE）、塩（SALT）の12種類である。「一つだけ、企業名が書き込まれているトラストがある。それは何という企業か」と

問い、画面のほぼ中央に描かれている「STANDARD OIL TRUST」を確認し、その理由を考えるように生徒に指示する。

実は上記の12のトラストのうち、最も早く成立し、他のトラストのモデルともなったのが、1882年にロックフェラーによって設立されたスタンダード石油トラストなのである。オハイオ州クリーヴランドの小さな製油会社から始まったスタンダード石油は、創業者の才覚によってまたたくまに吸収・合併を繰り返して成長し、トラスト発足後には全米精製石油の90%以上を独占するビッグビジネス（巨大企業）になっていった。

今回の風刺画発表当時の第50議会で継続審議となったシャーマン反トラスト法案は、第51議会において1889年12月4日に上院に提出され、翌1890年3月21日、提案者のシャーマンは法案の趣旨に関する演説を行った。この演説のなかでシャーマンは、クリーヴランドでのスタンダード石油による同業他社への非道な競争排除ぶりを指摘しており、この法の適用対象としてスタンダード石油の存在があったことは間違いないようである。この石油トラストが、独占行為の象徴として、いかに多くの国民に目のかたきにされていたかは、新聞や雑誌に多数掲載された設立者ロックフェラーを揶揄した風刺画で何うことができる。今回の風刺画もそのようななかの1枚である。

他のトラストに関しても、作者の頭のなかにはモデルとなった企業名があったはずである。例えば「SUGAR TRUST」に関してはアメリカ精糖会社、「COPPER TRUST」に関しては鉱山王グッゲンハイムらの企業などが意識されていたと思われる。製紙業のトラストは新聞用紙業・一般用紙業など業種ごとに形成された。今回の画中の左から3番目に描かれているトラストは紙袋業のトラ



ストで、ユニオン・バッグ&ペーパー社がイメージされている。製紙業発展の背景にはアメリカにおけるマスメディアの発達と安価なパルプ技術の向上があったが、パルプ工場設立には多額の資本が必要であった。1889年時点での「STEEL TRUST」と「IRON TRUST」はおそらくカーネギーだろう。カーネギーは1901年に引退を決めてモルガンにカーネギー鉄鋼の全資産を売却したが、その資産には他社の買収などで増やした鉄鉱石産地の所有権も含まれていた。金融王モルガンが設立した鉄鋼トラストであるUSスチールは、全米鉄鉱産出量の約44%（1901年）を占める鉄トラストを兼ねたダブルトラストとして、カーネギーから引きつがれることになったのである。簡単に描かれているようにみえる風刺画だが、独占が進んだ当時のアメリカ経済状況の一端を知ることができる。

### 3. シャーマン反トラスト法と革新主義

1890年7月に制定されたシャーマン反トラスト法は、その内容の一般的性格とあいまいさ、加えて1893年から数年間続いた恐慌の影響もあって、十分機能しなかった。この法が日の目をみるのは、恐慌がおさまリ、1901年に大統領に就任した共和党のセオドア・ローズヴェルトの下においてである。彼はこの法をよりどころに、連邦レベルでの積極的な独占規制を行った。南北戦争後、経済の大発展をみた「金びか時代」の社会にはびこっていた不公平や不正義を正そうとする「革新主義の時代」は彼から始まり、タフト、ウィルソンの両大統領に引きつがれたとされるが、その中核は大企業の横暴を防ぎ、公正な企業活動による経済の発展と社会の安定をめざす反トラスト政策であった。

ローズヴェルトは1902年にシャーマン反トラスト法違反でモルガンの鉄道事業を告発した。翌年には商務労働省の新設にあわせて、独占規制のための調査・報告を行う「株式会社局」を設立した。さらに、1906年11月、ついにニュージャージー・スタンダード石油（スタンダード石油は持株会社を認めるニュージャージー州で事実上トラストを維持しており、65の企業を支配していた）を訴えたが、裁判はタフト政権期まで続き、1911年によりやく連邦最高裁から解散命令が出された。



図1 『明解世界史図説エスカリエ 十一訂版』p.168「④巨大企業の政府介入を風刺した絵(1907年)」(写真:PPS通信社)

図1「巨大企業の政府介入を風刺した絵」は、このようなローズヴェルトによる「トラストバスター」の動きに対する巨大企業の対応を描いたものであるが、USスチールを創設したモルガンと、これに協力したカーネギーらの鉄鋼業界の反応はすばやいものであった。株式会社局が調査に入ると、USスチールは会計簿を提出、政府の助言指導に従うという姿勢を示したのである。多くのトラスト企業がこれにならったのはいうまでもない。生徒には、トラスト訴訟はその後の政権に受け継がれて件数を増やし、民主党のウィルソン大統領期の1914年には、シャーマン反トラスト法を強化するクレイトン反トラスト法と連邦取引委員会法が制定されたことを指摘しておく。とくに後者の法では、株式会社局にかわって連邦取引委員会が新たに設置された。

### 4. さいごに

社会的公正を求める気運の高まりを受けて始まった革新主義時代（19世紀末～1920年ごろ）には、富の偏在を正すためにも累進性のある個人所得税への支持が共和党内にも広がるようになり、1909年に共和党のタフト政権は憲法修正による所得税導入をめざすようになった。これを受けて、1913年に発足した民主党のウィルソン政権は同年10月、連邦所得税を導入することになった。貧富の差、富の偏在の問題は、古くて新しい問題である。今回の風刺画を読み解く作業を通して、独占と富の偏在や格差の問題を、生徒が現代を意識しながら考えるきっかけになれば幸いである。

# 二段階で身につけるグラフ資料読解力

## ー17・18世紀のオランダとイギリスの事例からー

秋田市立御所野学院高等学校 伊藤真司

### はじめに

大学入学共通テスト（新テスト）に対応するためには、生徒自身の「読み解く力」の向上が必要不可欠である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにも、生徒が思考・判断・表現するための広範な読解力の育成が大きな課題となっている。教科書や資料集の資料を結びつけながら読み解く力は、新テストに対応するための基礎的資質となる。

本授業案は、『最新世界史図説タペストリー 十七訂版』p.XI～XII「グラフから読み解く世界史 ② アジアとヨーロッパの経済発展」を取りあげ、オランダの経済発展と海外進出、さらに18世紀のイギリスの大西洋三角貿易を基盤とした成長に続く社会経済的变化について考えることを目的とする。グラフ読解にあまり親しんでこなかった生徒の理解を助けられるよう、KJ法を用いて生徒自身の思考を見える化しながらスモールステップで授業を行い、より多くの生徒の読解力の底上げをめざすことを目標としている。

### 授業の構成と展開

#### ●工夫する点

試行テストや模擬試験などでみられるように、生徒にはグラフをどのように読み解いたかを文章で説明する表現力が求められる。しかし、最初から文章を考えるのは難しい。そこで、キーワードを記したカードを配布し、その組み合わせによってグラフから読み取れることを言語化することで、説明する技術を身につけさせたい。そのうえで、キーワードを提示しなくても教科書や資料集から自らキーワードを見つけ出して組み合わせ、グラフから読み取れることを言語化できるようにしたい。

#### ●導入 5分(既習事項の確認と本時の目標の提示)

授業の目標として、これまで学習してきた17世紀から18世紀にかけてのヨーロッパの政治・経済史をふまえ、アジアとヨーロッパのつながりについて視点をかえて理解することを生徒に提示する。そのために、17世紀から18世紀にかけてのアジアとヨーロッパの経済発展についてグラフを読み解きながら、それぞれの世紀につき1か国ずつ注目して考えを深めることを本時の活動とする。

#### ●展開ー1 20分(17世紀オランダの繁栄)

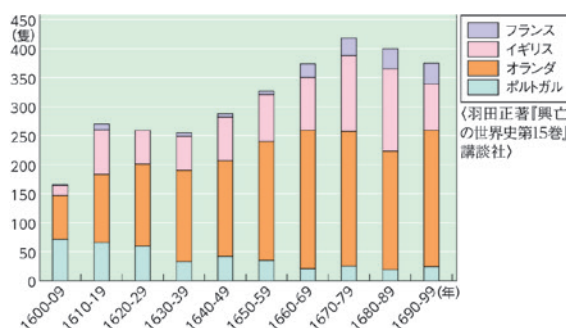


図1 東インドに向かうヨーロッパ船の数（『最新世界史図説タペストリー 十七訂版』p.XI⑤）

#### 1. 資料の読み解き① 個人

グラフから、最も多くの船を東インドに派遣したヨーロッパの国を学習プリントに記入する。

#### 2. 資料の読み解き② グループ

「グラフにみられるように、なぜオランダはアジアとの貿易のために他国よりも多く船を運用したのか」と発問し、考えさせる。その際、既習事項をヒントとしながら考えるためにキーワードを記したカードを配布し、グループごとにキーワードを組み合わせ、説明文を作成する。キーワードは、[香辛料貿易 バルト海貿易 連合東インド会社 アムステルダム銀行(金融) 参入 アジア]などをあげた。アムステルダム銀行をあげた



のは、若干深い内容となるが、アムステルダム銀行が1609年に設立された最初の国際銀行で、どのような貨幣での預金も受けつけ、両替を独占していたことに授業で触れていたためである。

### 3. 説明文の共有

作成した説明文は、個人の学習プリントに記入し、グループ代表者が発表して共有する。共有した文のうち、最も簡潔で的確に説明できていると思われるものを個人の学習プリントに書きとめる。

#### ●展開－2 20分（18世紀イギリスの対外進出）

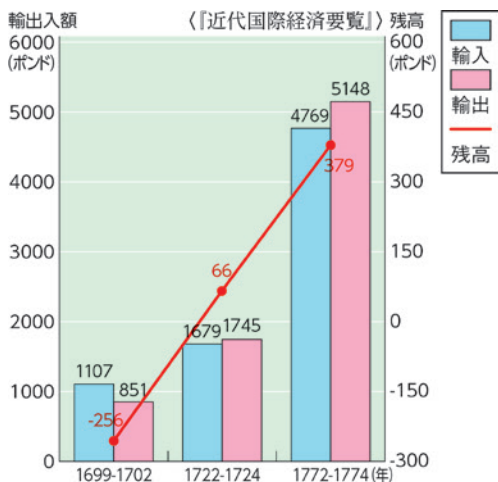


図2 イギリスの対大西洋貿易における収支（『最新世界史図説タペストリー 十七訂版』p.XII㊸）

#### 1. 資料の読み解き① 個人

「グラフのように、イギリスの対大西洋貿易における収支がマイナスからプラスに転じたのはなぜか」と発問し、説明文に使うキーワードを資料集や教科書から集めさせる。

#### 2. 資料の読み解き② グループ

グループで一つの説明文を作成する。集めたキーワードは、それぞれ付箋に記入してグループ化し、説明文作成のために活用する（KJ法）。

説明文を個人のワークシートに記入する。説明文が数パターンできた場合もすべてワークシートに記入し、優先順位をつける。生徒が集めると予想されるキーワードは、[大西洋三角貿易 産業革命 パリ条約 プランテーション 黒人奴隷 金融システム 資本の蓄積] などである。

### 3. 説明文の共有

最も優先順位の高い説明文をグループ代表者が

発表して共有する。そのなかで、最も簡潔で的確に説明できていると思われるものを個人の学習プリントに書きとめる。

#### ●まとめ 5分

グラフを読むときには、これまで学んできたことからキーワードを拾う作業のなかで、教科書や資料集の文章表現も参考にしながら考えることにより、グラフの示すところを理解したうえで表現できるようになることを確認する。また、17世紀から18世紀にかけてのオランダとイギリスの繁栄の構造が異なることを指摘する。

### さいごに

以上の学習活動を通じて、資料集のグラフと教科書本文を結びつけられる読解力はもちろん、思考力や表現力の底上げも期待できる。グループでの作業やクラス全体で説明文を共有する際に、ワークシートに繰り返し説明文を書きとめることによって、知識と文章表現のパターンを定着させることも意図している。また、生徒が考えた説明文に優先順位をつけさせることは、多様な視点のなかでどの説明が最もグラフの示すところを的確に表現しているのかを考える機会の提供にもなる。これは、グラフの説明文を選択肢のなかから選ぶ形式の問題を考える力につながる。今後は、複数の資料を組み合わせながら読み解く授業法の構築についても考えることで、より応用的な内容に取り組むことも必要であろう。

いくつかの単元で、グラフを読み解く授業を同一の構成で展開することで、生徒自身が授業で取り組むべきことを自覚し、見通しをもって安心して学習活動に参加できるようにしたい。さまざまな時代や地域の多彩な資料を読み取り、言語化できるような技能をより多くの生徒が身につけ、新テストに自信をもって臨める力を習得することを期待する。

#### 【参考文献】

- ・A.プレシ、O.フェールターク著、高橋清徳編訳『図説 交易のヨーロッパ史―物・人・市場・ルート』（東洋書林、2000年）
- ・フィリップ・カーティン著、田村愛理・中堂幸政・山影進訳『異文化間交易の世界史』（NTT出版、2002年）

# モノの消費社会から金融社会への変化

京都産業大学 教授 玉木俊明

## ● 格差社会の誕生

トマ・ピケティの『21世紀の資本』（山形浩生・守岡桜・森本正史訳、みすず書房、2014年）が世界的なベストセラーとなってから、現在の世界では、貧富の差が拡大していることが広く知られるようになった。ピケティは、クズネッツ曲線が成立しないと主張した。クズネッツ曲線とは、資本主義社会では、当初は格差が拡大するが、のちに縮小することを表した曲線である（図1）。現実には格差は世界中の国々で発生しているばかりか、先進国と発展途上諸国間の格差も拡大していることもわかってきた。世界は、一にぎりの金持ちと、多数の貧しい人々によって成り立っている。現在のところ、一国の内部であれ、世界的にであれ、格差が縮小する見込みはあまりない。

実はこのようなことは、現実には、ある程度知られていたことであった。それを明確なデータによって突きつけたのがピケティであり、拡大する世界的格差を如実に示した多数の統計であった。

重要なことは、世界全体をみても、国内だけをとらえても、所得格差は広がっているということであり、そしてそれはなぜ生じているのかということである。ここでの目的は、それが生じた理由を歴史的に解明することで、将来の世界のあり方のヒントを示すことにある。

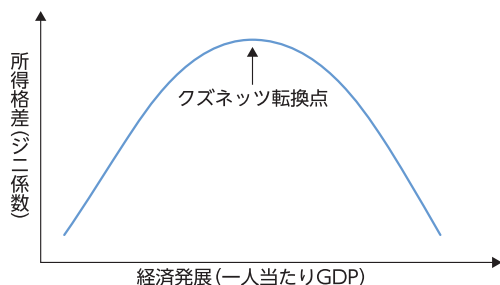


図1 クズネッツ曲線

## ● 格差はどのようにして縮小したのか

格差は現代社会だけの特徴とはいえない。むしろ、歴史的には格差はずいぶんと大きく、それが縮まったのが20世紀の社会の特徴であった。例えば、始皇帝が築いた阿房宮のような建物の建設は、現代世界では、どのような金持ちであっても不可能であろう。社会は、長期的に平等化の方向へと向かったのであり、そこで重要な役割を果たしたのが消費財（消費者が現実を使う商品）であった。

われわれは、一般に国の豊かさを国内総生産（GDP）で計測する。GDPとは、ある一定期間の経済活動による付加価値の合計である。しかし、生身の人間は、抽象的な数値ではなく、現実生活がどれほど豊かであるかということで判断する。それは通常、身のまわりにある商品が多いかどうかによって大きく影響される。もし、自分の持ち物が他の人より少なければ、自分は貧しいと感じるのが普通の人間である。そして、人類の歴史とは、かなりの長期間にわたり、より多くの消費財に囲まれた生活をしたいという欲求につき動かされてきた歴史であるといつて、間違いではないのだ。

## ● 消費社会の誕生 近世

では、消費財の多い社会がどのようにして誕生したのだろうか。ここでは、近世のヨーロッパを取りあげて、具体的に述べてみたい。

近世になると、ヨーロッパに、海外からの消費財が入ってきた。例えば、インドから輸入された綿織物のキャラコである。インドキャラコがヨーロッパに熱狂的ブームをおこしたということは現在では否定されているが、一方で、大量のインドキャラコがヨーロッパに輸入されたことも事実である。ヨーロッパはインドキャラコにより消費財





図2 『明解 世界史A』 p.108 「①インドの織布工」(写真: WPS)

が豊富な社会となった。ヨーロッパは、イギリス・マンチェスターの綿織物生産でその輸入代替（それまで輸入していた製品を国内で生産すること）に成功したことで、さらに豊かになった。これこそ、イギリス産業革命の根幹をなす経済の変革システムであった。

さらに、近世のヨーロッパに輸入された消費財として、砂糖、コーヒー、茶などがあった。砂糖とコーヒーは、主として新世界から、茶はアジアから輸入された。砂糖とコーヒーは、元来アジアで生産されていたが、その量は決して多くはなかった。けれども新世界で黒人奴隷の手で生産されるようになると、生産量が爆発的に上昇した砂糖とコーヒーはヨーロッパに大量に輸入され、ヨーロッパ人が消費するようになることでヨーロッパの生活水準が上昇し、彼らは豊かになったと考えられるのである。ヨーロッパは高緯度に位置し、その厳しい自然環境から低かった生活水準が、海外からの消費財の流入で高まり、その結果として経済成長があったのである。

これらの事例から判明するように、消費財を大量に消費することこそ、近代の経済成長の中核をなしたのである。

## ● 消費社会の誕生 20世紀

20世紀の特徴の1つに、大衆消費社会の誕生があった。単純に言えば、ミドルクラスの拡大が、大衆消費社会を生んだのである。彼らは、消費財、とりわけ耐久消費財を購入するようになった。1920年代のアメリカでは、自動車、アイロン・洗濯機・冷蔵庫・ラジオなど家電製品が普及した。

さらに1950～70年代初頭の日本の高度経済成長期には、三種の神器といわれた白黒テレビ・洗濯

機・電気冷蔵庫、さらに新三種の神器といわれたカラーテレビ・クーラー・乗用車が耐久消費財として購入され、日本人の生活の豊かさの上昇に貢献した。そのために、日本は世界一平等な社会といわれるようになったのである。

比較的豊かな人々が増えると、その国は安定する。20世紀の経済成長は、おそらく所得格差を一気に縮めた。クズネツ曲線とは、実は、そのような現象を描いたものであり、現実の経済においては、一時的現象にすぎなかったものを普遍化したといえよう。ピケティの議論の要点は、クズネツ曲線の出現とは、しょせん一時的な現象にすぎなかったことを明らかにしたことにある。

世界史的にみて、経済成長を牽引したのは、「消費意欲」であった。それに対しマックス＝ヴェーバーは人々が禁欲し勤勉になることで近代社会が生まれたと考えた。しかし、もし人々が禁欲したなら、需要はのびず、結果として経済は成長しないのである。消費財を大量に購入することなどありえない。むしろ、欲望こそが経済を成長させるというウェルナー＝ゾンバルトの見解のほうが、歴史的事実を正しく説明できよう。

毛織物であれ、綿織物であれ、化学繊維であれ、それらは消費財であり、一般の人々が購入するからこそ大量生産された。しかも、工場に必要な生産財（消費材を生産する手段となる道具、機械、建物など）の多くは、機械であった。生産財である機械が消費材を生産した。おそらく近世以降、長期間にわたり、このようなしくみが経済を動かしていたのである。その最終局面ともいえるのが、日本の高度経済成長であったといえよう。

## ● 金融社会の台頭

1980年代からの世界経済の特徴の1つは、GDPに占める金融の比率がきわめて高くなったことである。しかし、金融手数料の収入は、もともとはGDPには組み込まれていなかった。そもそも銀行とは、金融仲介機関といわれ、基本的にはある人々から預金され、それを別の人々に貸し付け、この二つの利子収入の差額によって生存する機関である。したがって、金融活動が本当にGDPに

貢献しているかどうか、実は簡単には決められない。ところが現在では、金融取引による収益の多くがGDPにカウントされる。これは、GDPを少しでも上昇させたいという各国政府の意思の現れだにとらえられてもしかたがない。GDPに占める金融部門の地位は明らかに過大評価されている。

金融部門は、人々の生活を直接豊かにはしないが、優秀な人々が働き、巨額の富を獲得している。

このような社会は、実はイギリスの帝国主義時代のなごりでもある。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、イギリスは世界に冠たる帝国になった。イギリスは産業革命が起こった国であったが、18世紀末から19世紀初頭にかけて、貿易収支が黒字であったことはほとんどなかった。19世紀後半以降のイギリスに多くの富をもたらしたのは金融部門であった。さらに、現在のイギリスでは金融街であるシティの売り上げがイギリスのGDPの20~30%、租税収入の約10%を占めるという推計もある。

イギリスとアメリカを比較するなら、アメリカのほうが金融取引は多い。しかし、その額が国民経済に占める比率は、イギリスのほうが高い。シティは、ニューヨークの金融中心地のウォール街以上に、外国に開放されている。それは、イギリスが広大な植民地を有する帝国であったからである。OECD租税委員会による世界のタックス・ヘイブン（租税回避地）リストの35地域のうち、22がイギリスに関係しているのである。これこそ、大英帝国が世界中に植民地をもっていた遺産である。大英帝国は、金融の帝国であった。

このような図式を強化したのは、アメリカの株

主資本主義である。アメリカでは、会社の所有者は株主である。従業員の待遇をよくするのが株主の責任だという発想は、新自由主義や株主資本主義には存在しない。したがってアメリカの株主は、便益を享受しながら責任を負わないという無責任な立場にいることになる。しかも株主には、できるだけ税金を安くするという権利まで付与されるようになった。そのため、企業には、タックス・ヘイブンを利用する必要があるという見方もできるのである。株主資本主義では、株価の上昇が不可欠であり、それは、金融部門の過大視をもたらし、金融は、本来あるべき数値よりも、経済に対する寄与度を高めることになった。一部の人々は金持ちになるが、世界は豊かにならないのは、それが大きな原因である。

### 現代社会の病理

われわれは、上に述べたような社会に生きている。金融を主とした活動によって、確かにGDPの値は上昇した。しかし、それは見かけ上のものであり、現実に経済が成長したかどうかはわからないのだ。

日本経済は、バブル期の不良債権処理が遅れたため、1990~2000年代に経済が低迷し、それを「失われた20年」とよぶことがある。だが、もしかしたら、1980年以降の行き過ぎた金融化のために、世界全体が「失われた40年」となる可能性すらあるのだ。

これから生きる人たちが覚えておかねばならないのは、このことである。消費社会から金融社会へと移行することで、われわれが失ったものは、とてつもなく大きいかもしれないのである。

だが、そもそも金融仲介機能（借り手と貸し手の仲介）は、適切な投資がなされたなら、経済に多くのプラスをもたらすことができる。日本にはまだまだ優秀な製品を生産する製造業は多い。したがって、銀行に代表される金融仲介機関が適切に機能し、製造業を発展させることができれば、日本経済はまた発展するであろう。それは、金融をあまりに重んじたイギリスやアメリカには、不可能なことかもしれないのである。



図3 『最新世界史図説タペストリー 十七訂版』p.196 〔3〕世界金融の中心となったロンドンのシティ(金融街) (写真:WPS)